

【研修報告】

MLD/CDT Lymphedema Certification Course の研修報告

樋口 富枝^{*1}, 植田 喜久子^{*2}

はじめに

筆者らは平成20年8月にアメリカでリンパ浮腫ケアの研修を受ける機会を得た。そこで、MLD/CDT Lymphedema Certification Course の概要について報告する。

Course の目的

MLD/CDT Lymphedema Certification Course (Manual Lymph Drainage/Complete Decongestive Therapy Certification Course : 用手的リンパドレナージと複合的理学療法の認定コース) とは、Klose Training & Consulting 主催のリンパ浮腫治療に関する講習のうちの1つで、アメリカリンパ学会認定の資格であるリンパ浮腫認定セラピスト (Certified Lymphedema Therapist : 以下, CLT) 育成のためのコースである。CLT は、リンパ浮腫治療である複合的理学療法 (Complete Decongestive Therapy : 以下, CDT) と CDT の1つである用手的リンパドレナージ (Manual Lymph Drainage : 以下, MLD) の技能があることを意味する。

研修期間と研修場所

Klose Training & Consulting 主催の MLD/CDT Lymphedema Certification Course は、アメリカ合衆国各地で開催されている。今回筆者らが参加した研修は平成20年8月11日から23日までワシントン州カークランド市のエバーグリーン病院で行われた。カークランド市は、シアトルから自動車で約30分のワシントン湖の東岸に位置している。エバーグリーン病院は、急性期治療、リハビリテーションやホスピス、リンパ浮腫治療等を行っている総合病院だった。

講師紹介

講師は、Klose Training & Consulting 主催者でドイツのフェルディ・クリニック公認 MLD/CDT Certified Instructor (MLD と CDT の認定指導者) と CLT でもある Guenter Klose, 医師の Kathleen Francis, 理学療法士で CLT でもある Linda S. Roherty だった。Guenter Klose と Linda S.



写真1 参加者全員と主催者 Guenter Klose
“折鶴を手に”

Roherty が主に MLD と CDT の講義と演習を担当し、Kathleen Francis がリンパ浮腫の解剖学、生理学、病態生理学、診断と治療等の講義を担当していた。

参加者の概要

参加者は計18人で、その職業は、理学療法士 (Physical Therapist : 以下, PT), マッサージ師, 看護師で、そのうちの数人は既に病院で PT として MLD と CDT を行っていた。

研修の費用

研修費は、2700アメリカドル (当時で約30万円) だった。

教材

教材の主な物は、①フェルディらの著書『Textbook of Lymphology : For Physicians and Lymphedema』, ②配布資料『Lymphedema Therapy Certification Course』, ③リンパ系の解剖のポスター3枚, ④DVD 2枚 (MLD と CDT、生殖器のリンパ浮腫ケアについて), ⑤CD-ROM 2枚 (リンパ浮腫の体積測定用、リンパ浮腫に関する雑誌記事等), ⑥上下肢用バンデージ物品, ⑦弾性着衣の資料等だった。

研修の内容 (表1)

研修は、計135時間だった。うち、30時間は事前自己学習で、105時間 (約2週間13日間) が研修だった。

*1 日本赤十字広島看護大学 higuchi@jrchn.ac.jp *2 日本赤十字広島看護大学 kiueda@jrchn.ac.jp

表 1. MLD/CDT Certification Course 日程表

日程			研修内容
1日目	8月11日	月	オリエンテーション
			講義 解剖学, MLD
2日目	8月12日	火	講義 生理学, 病態生理学
			演習 MLD (基本), バンテージ
3日目	8月13日	水	講義 医師によるリンパ浮腫の講義 (定義, 病期, 診断, 治療等)
			バンテージ
			演習 MLD (基本)
4日目	8月14日	木	講義 医師によるリンパ浮腫の講義 (定義, 病期, 診断, 治療等)
			MLD, バンテージ (上肢)
5日目	8月15日	金	講義 医師によるリンパ浮腫の講義 (定義, 病期, 診断, 治療等)
			上肢のMLDをテーマにしたディスカッション
			演習 バンテージ (上肢: ウレタンフォーム使用)
6日目	8月16日	土	到達度テスト (筆記試験)
			演習 事例学習, バンテージ (下肢: ウレタンフォーム使用)
7日目	8月18日	月	講義 複雑なリンパ浮腫に対するケア (手術創, ケロイド等)
			下肢のMLDをテーマにしたディスカッション
8日目	8月19日	火	演習 CDT (リンパ浮腫の患者に対して講師が治療を施す: デモンストレーション)
			MLD (線維化がある場合), バンテージ (下肢)
9日目	8月20日	水	筆記試験
			講義 MLD と CDT の応用 (脂肪腫, 外傷後等に対するケア)
			演習 MLD と CDT (生殖器のリンパ浮腫, 上肢のバンテージの復習)
10日目	8月21日	木	講義 弾性着衣とその処方の方
			演習 CDT (リンパ浮腫の測定)
			MLD (リンパ浮腫の患者に対して講師が治療を施す: デモンストレーション)
11日目	8月22日	金	講義 MLD と CDT (頭頸部のリンパ浮腫)
			演習 運動療法とセルフケア
			バンテージ (用具の選択)
			MLD とバンテージ
12日目	8月23日	土	実技試験

た。研修は、1週目が月曜日から土曜日まで、2週目が月曜日から金曜日までで、午前8時から午後6時まで講義と演習が行われた。

研修の内容は、講義によって、リンパ浮腫の解剖生理と病態生理、MLDとCDTの適応と禁忌、方法等を学んだ。また、演習によって、MLD (Vodder式) の基本と応用、四肢リンパ浮腫に対するバンテージ等を学んだ。MLDやバンテージの演習では、講師がデモンストレーションを行った後に参加者が交互に患者役とCLT役となり実施し、講師から助言を受けるといった方法で行われた。さらに、講師が同意の得られたエバーグリーン病院の患者に対するCDTのデモンストレーションを行った。

認定資格試験

資格の認定は、筆記試験と実技試験によって行われた。筆記試験は、講義で学習した解剖学、生理学、病態生理学、リンパ浮腫のアセスメントと治療計画を問うもので、計24問の設問に対し、80%以上の正答率で合格としていた。実技試験では、参加者が講師から与えられた事例について、アセスメントをして治療計画を立案した。そして、その結果を講師に全身図を用いてプレゼンテーションするものだった。

た。参加者が実技試験で取り組む事例は、1人1人で異なっていた。筆者らに与えられた事例は、「乳がん術後にリンパ浮腫を発症した50代女性。過去にCDTを受けており、CDTを途中で止めてしまっから5年経過した。リンパ浮腫が悪化したため、最近、再び受診した。現在、右前腕の浮腫、皮膚の発赤と硬結が認められる。」や「乳がん術後にリンパ浮腫を発症した60代女性。既往に患側の肩関節の人工関節置換術があり、関節可動域制限がある。また、リンパ浮腫の病期はⅡ度とⅢ度の部分がある。」という設定だった。このように、複雑な状態の患者に対処する能力を身に付けることが認定資格授与の条件だった。

その結果、筆者らは認定資格試験に合格し、CLT License #299645 (植田), #692734 (樋口) を得た。

研修後のフォロー体制

研修後も、Klose Training & Consulting が参加者のリンパ浮腫に関する質問に回答するといったフォロー体制が整っている。また、研修期間中に講師や参加者の連絡先も案内があり、情報交換することもできるようになっている。さらに、継続教育プログラムが複数ある。

おわりに

研修は全て流暢な英語で行われ、緊張の連続であった。また、連日の研修や自己学習による疲労と睡眠不足との闘いでもあった。しかし、熟練したCLTによるMLDを肌で感じることは大変貴重な経験だった。また、国は違っても、多くのリンパ浮腫ケアを必要としている患者がいること、それに情熱を持って応えようとする医療関係者がいることを知り、励まされた。

リンパ浮腫ケアは、多職種が関わることのできるケアである。そのため、今後は、看護師がどのようにリンパ浮腫ケアを行っていくか、看護師がリンパ浮腫ケアを行うことの意味や価値は何かを、探求していきたい。

今回の研修は、日本赤十字広島看護大学より海外旅費助成を受けて参加しました。貴重な機会を与えてくださいました本大学に深く感謝致します。



写真2 主催者 Guenter Klose と

